

学位論文内容の要旨

愛知学院大学

論文提出者 下村淳子（心身科学科健康科学専攻博士後期課程）

論文題目

Study on the risk factors of injuries resulting in hospitalization in primary school students

（小学校における入院を要する負傷の発生要因に関する研究）

論文内容の要旨

本研究の目的は小学生が学校内での活動中に入院する重症な負傷を防止するために、入院する重傷な負傷の発生要因を明らかにすることである。方法は東海北陸地方7県に所在する小学校で2007年4月から2008年3月までの1年間に学校管理下で負傷し、医療機関で治療を受けた70,701件の負傷を分析した。「入院した負傷」と「入院しない負傷」に分け、負傷時間帯、負傷場所、負傷時の遊具使用状況やその遊具の種類についてクロス集計と発生率を算出した。さらに入院に影響するリスクをロジスティック回帰分析で解析した。その結果として、以下の4点が捉えられた。1. 70,701件のうち入院した負傷は882件で児童1,000人あたり0.8件、入院した割合は1.2%だった。入院した882件は、低学年が50.5%、高学年が49.5%だった。2. 入院した負傷は「休憩時間中」が最も多く、低学年では63.8%、高学年では47.6%だった。3. 低学年の児童が休憩時間中に校舎外で入院した負傷は207件で、そのうち遊具使用中は64.7%だった。入院リスクは遊具を使用していない時の3.30倍有意に高かった。高学年では132件発生し、遊具使用中の負傷は46.2%、入院するリスクは3.88倍有意に高かった。4. 遊具別では雲梯15.9%、鉄棒7.2%、ぶらんこ固定タイヤ6.3%、すべり台5.3%で、入院リスクは遊具を使用していない場合に比べ、雲梯が6.88倍、固定タイヤ5.34倍、シーソー4.83倍、ジャングルジム2.82倍、すべり台2.52倍、ぶらんこ2.29倍、鉄棒2.15倍有意に高かった。

以上のことから、小学校において入院となる重症の負傷は、休憩時間中に校舎外である校庭の遊具使用中に多く発生しており、とりわけ雲梯やジャングルジム使用時に転落などによって上肢部骨折することによって入院のリスクを高めていることが捉えられた。よって、入院する負傷を予防するためには、休憩時間中に遊具を使用する活動において、低学年児童が転落を防ぐための対策を強化することが重要である。